

大阪近郊の大きな屋敷でジャズ・ライブを聴く。古い庄屋さんの屋敷らしく、五十畳ほどの座敷に緑の多い庭。天井が高く、クラリネットがよく響き、初秋にふさわしい雰囲気だった。私鉄の駅から徒歩五分、ふだんはギャラリーとしても使われるという。維持費や税金が気になる。

お屋敷

古い屋敷の維持には苦勞が多い。わが故郷のランドマークともいえる川沿いの屋敷は市に保存する余力がなく、崩壊の危機にあるという。姫路近郊の知人はある期間の保存を条件に屋敷を市に寄付した。文化財の指定を受けた屋敷に住む知人は、勝手な改修ができず不便とも言う。

地元の方々の協力によるコンサート、「ハコもの」ホールとはちがうアットホームな雰囲気、これも屋敷保存のひとつのあり方と感じた。

みらい手帳

(SF作家 堀 晃)